

遊ぶ子どもは賢く育つ！～想像力と創造力を培うために～

・「子どもが外で遊ぶなくなった。」

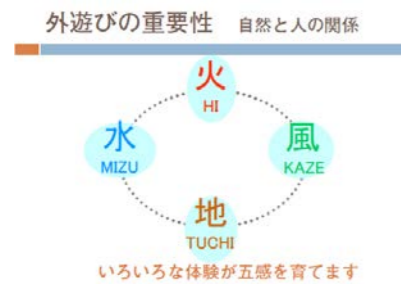
この半世紀で、子どもを取り巻く環境は大きく変わりました。かつてと比べ、スマートフォン、テレビ、ゲームなど、社会が便利なもので溢れ、人々の生活がとても豊かになりました。しかし、それに反比例するかのようになり、人としての力が段々衰退して、子どもを育てる力もどんどん失い始めているのではないかと社会問題になっています。室内で遊んでいる子どもが圧倒的に多くなりました。また、やらねばならないことをやっているような子どもも増えました。パソコン、習い事、カードゲームなど、お金で買うような、最初からプログラムされた遊び。自分で考えなくてもそれをこなしていくような遊び。何かを自分で創造するのではなく、逆の遊び。ただ与えられたものを受け入れる、主体性のない遊び。子どもの「遊ぶ」心が育たなくなっています。



・そもそも「遊び」とは？

「先生、この鬼ごっこが終わったら遊んでいい？」ある幼稚園生の言葉です。この言葉から何が見えてくるでしょうか。大人はつつい滑り台をしたから、砂場に行ったから、遊園地に行ったから、「遊んだ」と思い込んでしまいます。では、子どもにとっての「遊び」とはいったい何なのでしょう。それは、子どもがやりたいことをすることです。大人からあれをやりなさい、これをやりなさいと指示されるものではありません。

遊びは、自ら色々な経験をする事です。名前が決まるものでもありません。ある外遊びの研修会での子どもの感想です。「なんか分からないけど、みんなであらぶらして楽しかった～！」「ラーメンの油をず～っと繋げていくのがすごく楽しかった」このように、全く名前のないものもその子にとっては遊びになるのです。ある子は、枝豆をハサミで切った後に一生懸命洗ってはざるにあげて洗ってはざるにあげて、これを繰り返していました。子どもがやりたいと思ってしたことが遊びになるのです。



・遊びと成長

≪乳児期の遊び≫

乳児期の遊びは、見る・聞く・嗅ぐ・味わう・触れるという五感を使って感じる事です。お母さんの優しい肌からお父さんの筋肉質な感触など、色々なものを感じる事が遊びの原点と言われています。最近、「安心安全綺麗」「落ちては拾ってはダメ」など、大人は、子どもがモノを触ったり舐めたりすることを嫌がる事が多いですが、自分でしゃべり、甘いなど、舌で味わいながら確認していくことも一つの遊びなのです。乳児期の遊びは、言葉にならない様々な気持ちや考えを整理する手段です。

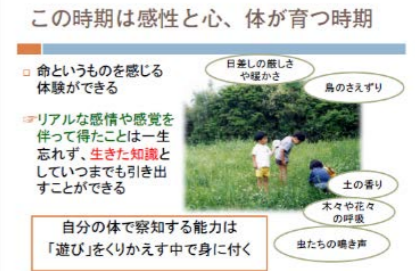


≪幼児期の遊び≫

幼児期は、乳児期よりもさらに「これは何だろう？」「やってみたい」「そうなんだ」と実感する時期です。

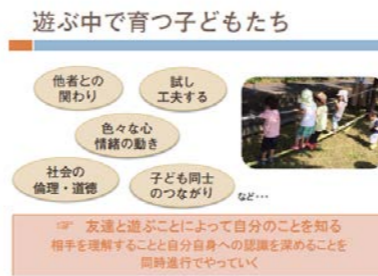
この時期が一番人間の基礎ができる時期であり、一番大切なプロセスが集約されている時期でもあります。「何だろう？」→「やってみよう」子どもが自ら考え、自己決定するまでの大切な時間です。最近では、自己決定ができない青年、大人が増えていると言われていますが、この時期にこのプロセスをたくさん経験してきた子は、自己判断できる大人に成長していきます。また、自分で歩き始めて色々な経験ができるのもこの幼児期の特徴とも言えます。この時期にどのような経験ができるかで、大人としての成長の違いが出てきます。

相手の気持ちを考える、これをやったらどうなるだろうと予測する、どうやったら上手くいこうと工夫する、頭の中に描いたものを形にする、これらには、すべて想像力と創造力が必要です。乳幼児期に、遊びを通じてどれだけ心と頭と手先を動かし遊び込んだかが今後の想像力と創造力の土台になります。



・子どもの「やってみたい」を尊重する

子どもは本来生まれながらにして、「初めてのことに挑戦してみたい」という気持ちつまり、自ら育つ力を持っていると言われていています。しかし、その力を奪ってしまうこともあります。一日の間にお母さんが一番言う言葉は、「早く」だそうです。「早く起きなさい」「早くご飯食べなさい」「早くしないと幼稚園に遅れるよ」大切なことは、子どもの「やってみたい」という気持ちです。最初は誰も分からないことばかりですが、できる前にはできない時間が必要で、わかる前にわからない時間を経験することが必要なのです。今できなくても、やがてできる！やがてわかる！という確信につながっていきます。



・保護者の方にやってほしいこと

子どもに何かを頑張らせるのではなく、子どもが頑張ることのできる環境を作りましょう。それは外が圧倒的にいいです。五感を通して様々なことを感じられるからです。「今日も雪が降って寒いね～」「お月様綺麗だね～こんばんは～」春になると桜が咲く、木の芽が香りがする、鳥の音がする、そういうものをお母さんたちが言葉にして伝えてあげましょう。また、できる範囲でできることがあれば、チャレンジをさせてあげましょう。自己決定の事です。出かけるときに「今日はどっちを着る？」など、毎日の中で自分で決めるという瞬間を子どもに投げかけてみましょう。子どもが嬉しい、冷たいなど、色々な初めてを経験したときに、「ほんとだね～！」「そうだね～！」と生き生きと反応しましょう。そんなお母さんの姿を見て、子どもは生き生きとした経験ができます。

子どもは遊ぶ中で多くのことを自ら身につけていく力を持っています。特に、乳幼児期は何でもその子の土台ができる時期です。大事なことは、乳幼児期に何がどうして大切なのかをぜひ見極めていただきたいです。



平成30年1月25日(木) 城南市民カレッジ講演会

講師：PLAY FUKUOKA 代表 古賀 彩子さんより